

春の野草観察会

2024.05.18 実施



開会行事の様子



⑨イヌビワ

⑪スイカズラ



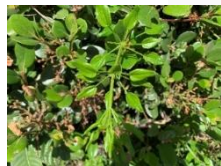
⑥イタチハギ



⑧ハマゴウ



⑬ エノキ



⑭シャリンバイ



⑫トベラ



⑯ ヒメジオン



⑰ マツヨイグサ



⑱ハマユウ



⑲ハマウツボ



▲大浜キャンプ場



⑳アメガシウ



㉘コウボウムギ



㉙ハマボウフウ



㉚ヘクソカズラ

㉛カワラヨモギ



㉜ハマヒルガオ



㉝ハマダイコン



㉞マンテマ



講師のうっ T こと内田祐介さん



講師の話を熱心に聞く受講生

5月18日(土)つノしま自然館(以下、自然館)では、昨年に引き続き、北九州市立白野江植物公園にお勤めで、グリーンアドバイザーの内田祐介さんを講師に、「家族で楽しもう!角島春の野草観察会」を実施しました。

最初に、つノしま自然館で保護している「ヒロハノカワラサイコ」(県絶滅危惧ⅠA類指定)の説明から始まりました。絶滅寸前の希少種で、2年前に新しく作った花壇に2株植えたところ、今では見事に増えています。ちなみに、生物の分類は、昔から形態形質に基づく分類(形態分類学)が行われてきましたが、現在は、DNAを直接解析することによって得られる遺伝形質を比較する分子系統学の研究が急速に発展していて、分類も変わってきているそうです。レッドデータブックやまぐちを含め、自然館の掲示の見直しをする必要性がわかりました。

次は、駐車場入口付近に生えている「セイタカアワダチソウ」です。要注意外来生物(外来生物法)で、日本の侵略的外来種ワースト100指定種です。土手や休耕地に生えていて、参加者もほとんどが知っていましたが、自然にはなくて人間が手を入れるところに生える特性があるそうです。花が咲く前(10月ごろ)に抜くことが、一番防除効果が大きく、抜けば抜くほどなくなるそうです。平尾台(北九州市)では、10月に「抜き取り大作戦!」を行い、確実に減っているそうです。その後、自然館周辺を1時間半、全部で31種類の野草の特性を入れながら、おもしろく説明していただきました。昨年と同じコースでしたが、花のラインナップが大きくちがい、一年間で植生が変わってきていることに、講師自身も驚かされていました。受講者の感想に、「初めての参加。文句なしに楽しかったです。普段何気なく見ている(見ていない)植物を、この次からは、もっとしっかり愛しく見ると思います。」、「説明がわかりやすく、楽しかったです。外来植物もおもしろく、植物の賢い戦略も勉強になりました。」とありました。

昨年に引き続き、なかなか充実した観察会となりました。今回の観察会の様子は、5月25日(土)~7月29日(月)まで、写真展として自然館内に展示しています。興味のある方は、どうぞ、足をお運びください。

なお、次回は8月4日(日)に、角島こども探検隊~親子で昆虫観察~を予定しています。

